

令和7年度東京都立目黒高等学校 学校経営計画

東京都立目黒高等学校長

1. 目指す学校

(1) スクールミッション

「知性豊かな人格形成、個性の伸長、自主・自律の精神育成」を教育目標とし、生きる為の基礎的・基本的な知識や人権感覚及び規範意識を身に付け、将来にわたり学びを継続する態度の育成を通じて、国際社会に貢献する生徒を育成します。

(2) スクールポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

基礎・基本を身に付け、主体的に知識を活用する力を育み、高い志を掲げその達成に向けた計画的な努力の継続を惜しまず、論理的思考力・判断力・読解力の定着を図り、何事にも負けない、健康や体力、忍耐力、精神力を育む、人権尊重の精神を併せ持ち、規範意識を身に付け自主的自律的に行動する能力を育成する。

生きる為の基礎・基本となる知識を身に付け、様々な課題に主体的に取り組み解決するための論理的思考力・数学的思考力・読解力を育み、的確な判断ができる力を育成する。また、特別活動等を通して健康や体力、精神力や忍耐力、規範意識や人権尊重の精神を育み、自主的かつ自律的に行動できる生徒を育成する。

② カリキュラム・ポリシー

5教科すべてを余すことなく必要な知識と認識し、基礎基本を身に付けさせ、将来の高い志の達成のために3年間を見通した教科・科目を段階的に深化し学習をする。

全教科で学ぶ内容を生きる為の知識と捉え、理系文系に関わらず全ての教科で基礎・基本の定着を図り、数学力や英語力の向上を目指し大学入学共通テストに対応する。また学校全体で読解力や表現力の向上のための取組を行い、文章力を育成する。

③ アドミッション・ポリシー

本校志望の意志が強く、自らすすんで学習に励み、その学習成果が期待できる。また規則正しい生活を送り、頭髪・身だしなみを整え、ルール・マナーをしっかりと守る心構えがあること。基礎学力を身に付けていて、入学後も続けて学力の向上が期待できる生徒。生徒会活動や部活動、学校行事などに積極的に参加し、努力したと認められる生徒で、これからも学校生活の中でその活動を続けることが期待できる生徒。特に推薦選抜においては、出席状況の良好さとともに、前述の活動で中心的役割を果たしたものが望ましい。

学びに対する意欲を持ち、自分の将来に対する高い志をもち、学習のみならず部活や学校行事等などに積極的に関わり努力を惜しまない生徒。様々なことに対する疑問を持ち、疑問の解決に主体的、積極的に取り組むことができる生徒。規則正しい生活習慣やルールやマナーを守れることは当たり前である。

2. 中長期的目標と方策

(1) 学習指導

- ① 高等学校で身に付けるべき基礎・基本を定着させ、知識を活用して探求活動や創造活動等の実践力を育成する。
授業第一・授業確保、習熟度別授業、日常の補習、講習の充実、カリキュラムマネジメントの活用
- ② 読解力・論理的思考力・判断力などを育成し、深い学びを実現し広く社会に貢献できる活用力を育成する。
読書活動、音読活用、理数教育、実技科目、総合的な探究、人間と社会などを活用
- ③ 高等普通教育により、全教科を適切に学習し5教科7(8)科目受験に対応できる力を育成する。
文系・理系を区別せず全生徒が学習できるカリキュラムの活用
- ④ 理数教育を充実させ、主体的に課題を発見、解決に向かう力を育成する。理科・数学科・情報科を中心に、調査研究、探求活動や課題解決学習などを活用
- ⑤ 英語教育を充実させ、グローバル化する世界に対応できる技能を育成する。
英語四技能を図るツール、JET、To Do リスト等の活用、留学生の積極的な受け入れや留学の推進
- ⑥ 特別講習期間や長期休業期間の講習を充実させ、学力の向上や課題解決を図る。
講習を大学受験に向けた内容で設定、学力を伸長させる講習実施、補習は随時実施
- ⑦ 情報化 (ICT) の有効活用、AL の考えたかを取り入れた授業を実践し、生徒の深い学を育む。
AL 型授業を全員で実施、教員相互の授業研究を推進し深い学びを提供
- ⑧ 情報機器を活用しオンライン学習を推進、授業と自宅学習の連携や学習定着を目指す。
i-pad を活用し、振り返りや質問対応、更に e ラーニングによる個別対応を進め生徒個々の学びに責任を持つ
- ⑨ 学習習慣を定着させ、自ら進んで計画的に学習し目標に向かった地道な努力ができる力を育成する。
生活習慣の適正化、朝テストの実施、目高手帳の活用、ICT 機器活用による計画的な学習計画の指導
- ⑩ 自学自習を推進するため施設設備や場所を活用し、学ぶ環境や意欲を高め、諦めず努力する力を育成する。
学習場所や学習時間の確保、質問等への日常的な対応、学び合いの活用と ICT 活用を推進
- ⑪ 人権意識を高め、生命尊重を基本に思い遣りの心や感謝の心、ボランティア精神を育み社会貢献を推進する。
総合的な探求の時間、道徳教育、オリパラレガシー教育、地域奉仕活動や防災教育を活用する

(2) 進路指導

- ① 3年間のキャリア教育計画を活用し、全教育活動を通じて高い志を育成し自己実現に向けた支援を行う。
目高手帳(キャリアサポート)の活用、各種説明会や講演会、オープンキャンパス等による興味関心の醸成と志の育成
- ② 生徒理解に努め、担任・学年・進路指導部が連携したキャリア教育を立案実施する。
面談、三者面談の全員実施、保護者との連携で高い志の育成と協力体制構築
- ③ 自主的な学習計画を立てさせ、目標達成に向けた講習会等の企画立案を行う。塾に頼らない指導の実施
長期休業前(夏：5月、冬：11月、春：3月)に講習の予定を示し主体的な学習を支援する
- ④ 自己実現に向け大学入学共通テスト受験を念頭に、模試計画等を立案し諦めさせない指導の実施。
模試分析会等の分析を教科担当が行い実態把握、授業改善、授業計画修正等、生徒の学力向上を支援する

(3) 生活指導

- ① 人間関係、環境整備など学習環境を整え、学習に集中できる学校づくりを徹底する。
挨拶運動、校門指導、清掃活動を徹底しコミュニケーションを図り課題の早期発見解決に努める

- ② 人権意識を高め、基本的な生活習慣の確立と社会規範を定着させるため学校教育全体で取り組む。
全校集会、学年集会、ホームルーム等での指導、遅刻を許さず学ぶ雰囲気を作り出す
- ③ コミュニケーション能力の育成、相手との直接会話を大切に意思疎通を図れる力を育成。
SNS等の利用は目高ルール及び情報リテラシー指導を行い、情報化に対応した指導も併せて実施
- ④ 生活指導部が中心となり、全教職員が統一した指導を行い、日頃から本校生徒にふさわしい身だしなみやマナーを身に付ける。
本校生徒としての自覚と責任を啓発し、本校に誇りを持った姿勢や行動を育成する
- ⑤ 授業、HR指導、特別活動を通して、生徒との信頼関係を構築し生徒一人一人に寄り添った生活指導を実施。
担任のみでなく、学校職員全員で生徒理解を進め丁寧な指導を実施し人間性を合わせて向上させる

(4) 特別活動

- ① 体育祭・文化祭・合唱大会等、各実行委員会が主体的に企画・立案・実施・反省する力を育成し自主性を育成する。
行事を通して思いやりの心、協働の大切さなど生きる力を身に付けさせ、達成感や成就感による自主・自律を育む
- ② 部活動の場を望ましい人間関係形成の場、健全育成の場として競技力向上とともに積極的に活用する。
部活動で自主的・自律的活動を経験し、向上心・公正・協力・責任などの精神を育成する
- ③ 地域との連携を深め、地域に貢献できる活動を積極的に展開する。
生徒会、委員会、部活動等への積極的な参加や、自他を思いやる心の醸成、奉仕の精神を学び地域の還元する
- ④ 小学校、中学校に向けた体験授業や説明会など、教員・生徒が協力し本校の教育活動をアピールする。
体験授業、中学生学習支援、学校説明会等に関わり、誇りや責任を体験するとともに本校の理解を深化する

(5) 経営企画・環境整備

- ① 危機管理体制を強化し、防災組織、防災訓練等を実施、自助・共助が可能で安全な学校を作る。
不審者等対応、施設の安全管理の徹底。発災時の対応組織、防災訓練実施による自助共助の力を育成、
- ② 近隣大学等と連携関係を構築、地域や保護者、同窓会との連携を合わせて教育活動の充実を図る
講演会(理数講演会含む)の講師派遣、PTA主催の講演会など、教育資産を活用し学ぶ意欲の向上を図る
- ③ スマートスクール導入による、一人一台 i-pad 利用など、情報化社会に対応できるスキルを養う
ICT活用授業や生徒個人に対する個別指導など情報機器を活用して学力向上を推進する
- ④ 経営企画室との連携をさらに強化し、職員全体がチームであり、経営に参画する意識を向上させる。
教員・職員ではなく、本校の教職員として相互に協力し学校運営に積極的ににかかわり学校改革を推進する
- ⑤ 築20年を超えた校舎、施設設備の老朽化に対応し安全な環境を維持。改善の計画的実施
日頃の点検や定期的な施設点検、破損箇所等の発見報告体制の充実

3. 今年度の取組目標と方策

テーマ：進学指導研究校として、学びを継続する環境や授業形態などの工夫を推進し、進学実績向上に向けた授業改善、生徒の学力向上を図る。

(1) 教育活動の目標と方策

<学習指導>

①学習習慣の確立

- ・1・2 学年においては、英数国を中心に朝テストを計画的に実施するとともに、カレンダーアプリや目高手帳を活用して、家庭学習時間の確保に努め、学年プラス2時間の学習習慣定着を図る。
- ・ICT 機器を活用した自学自習の課題配信や振り返り、質問対応等を実施し、きめの細かい指導の充実を図る。
- ・eラーニング等の外部コンテンツの積極的な利用を促進し、計画的かつ自発的な学習を指導する。

②授業改善の推進

- ・各教科において新学習指導要領に対応した授業を展開するとともに、観点別評価を適切に実施する。
- ・全ての授業において、アクティブラーニングの視点を取り入れ、対話や知識を活用した活動を充実させ、深い学びとなる工夫を図る。
- ・授業の相互参観や指名制による授業研究、ICT を利用した授業実践に取り組み、効果的な指導法の研究・開発を行う。
- ・生徒による授業評価の結果分析を生かし、各教科で組織的な授業改善に取り組む。

③自学自習の定着

- ・自習室等の環境整備やオンライン学習の活用を通して、自学自習をサポートするとともに、学力の確かな定着を図る。
- ・土曜授業日の放課後に学習講座を設定し、進路希望に応じた学習指導を推進するなど、個に応じた指導の充実に努める。

④言語能力向上

- ・すべての教育活動において言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を偏りなく育成する。
- ・読書活動を推進し、読解力や表現力の向上に努める。

⑤国際理解教育推進

- ・国際交流や留学生の受け入れなどを通して、多様な価値観に触れる機会を創出し、異文化理解を深める。
- ・英語四技能を測定する外部検定試験を活用し、総合的な英語力を育成する。

⑥理数教育推進

- ・理数への興味・関心を啓発し課題発見と解決方法の模索等の探求活動を推進する。
- ・理数関係の講演会を充実させ、理科・数学・情報関係の理科系を志す生徒の発掘・育成と進学を支援する。

⑦難関大学進学を目指した進学指導

- ・国語・数学・英語の基礎を2年までに固め、3年0学期からの志望校を目指した学習支援を充実させる。
- ・6-8受験を目指し、理数科目を切り捨てさせず生徒の目標を達成させる学力を育成する。
- ・共通テストを全員受験するとともに、国公立大学や難関大学に向けた2次試験対策として、進路希望に応じた個別指導等を充実させる。

⑧総合的な探究の時間

- ・統計やデータサイエンス、生成 AI の活用など、探究の基本的な手法を身に付け、生涯にわたって学び続ける「自律した学習者」を育成する。
- ・探究的な学びをはじめ教育活動全般に対して、教科横断的な取組を推進する。

<進路指導>

①計画的かつ組織的な進路指導の実施

- ・進路指導部主導で3年間を見通した計画的な模擬試験を実施し、学力の定点観測を行う。
- ・定期的な模試分析会やケース会議の開催を通して、進路指導部と学年教科担当が主導して進路データを分析し、校内で共有するとともに、外部専門家の助言も得て、生徒一人一人の希望進路の実現を図る。

②キャリア教育の推進

- ・キャリアパスポート(目高手帳)を活用するとともに、学部学科説明会、大学模擬授業等の実施を通して、高大連携を推進する。
- ・キャリア教育において外部機関・外部人材を積極的に活用し、生徒一人一人に自己の在り方・生き方を見つめさせ、進路目標を早期に設定できるよう支援する。

③長期休業中の講習

- ・夏季、冬季、春季講習と部活動、学校行事の準備と両立を図り、生徒の受講率向上を図る。
- ・長期休業中の学習計画を効率的に立てられるよう、早期に講座数、講座内容、実施日程等を生徒に周知する。

<生活指導>

①生活指導の徹底

- ・基本的な生活習慣を定着させ、社会生活における規範意識を高め、学習に集中できる環境を整備する。
- ・いじめ・体罰に関するアンケートを年間3回(7月・11月・3月(3年は1月))実施するとともに、いじめ総合対策に基づく校内研修を実施し、体罰根絶といじめ未然防止を図る校内体制を全教員で整える。
- ・いじめや自死の抑止に向け、生徒がSOSを発信しやすい学校づくりやSNS東京ルール周知徹底の取組を強化する。

②学校行事の活性化

- ・行事の主体を生徒会や実行委員会に委嘱し、教員見守りの下、生徒に企画・運営を担わせ、自主・自律の精神と人間性を育む。
- ・生徒会、実行委員会の活性化を図り、生徒自らリーダーシップを発揮し、行事の在り方や方向性を検討してルール作りができるよう支援する。

③防災教育の活性化

- ・防災に関する知識を深め、自らの命を守る力を身に付けさせ、自助を確立させる。
- ・地域と連携した防災教育や避難訓練を実施し、地域に貢献できる共助の精神を学ぶとともに、避難行動支援に関する取組の啓発を図る。

④健康増進

- ・保健体育、体育行事、運動部活動等を活用し、生徒の健康増進・体力向上を図る。

⑤環境美化

- ・快適な学習環境の整備・維持に努め、生徒による主体的な美化活動の充実を図る。
- ・地域貢献活動を通して、奉仕の精神を育み、環境問題に関する意識を高める。

<広報活動>

①募集対策の工夫

- ・学校説明会や学校見学会等の募集活動において、総務部と生徒会で連携し、本校の特色や強みをわかりやすく丁寧にアピールする。
- ・小学校や中学校における出前授業や体験学習の機会を利用して積極的に広報活動を展開する。

②HPの充実

- ・生徒の活動、学校の様子等を適時HPに掲載する。中学生や保護者に本校の特色・魅力を随時発信する。

③地域連携

- ・「人間と社会」の体験活動において、地域との連携を推進する。
- ・年間を通して公開講座や施設開放を継続して行い、開かれた学校作りを推進する。

<組織>

①組織運営

- ・働き方改革の一環として、「費用対効果」及び「時間対効果」を意識し、ICTを効果的に活用して業務の効率化を図る。
- ・明確な目的や目標を設定し共有するとともに、円滑な意思疎通を図り協働的な組織文化を醸成する。
- ・教科会を定期的に開催し、学習の進行管理を適正に行う。エビデンスに基づく教育課程の編成、実施、評価、改善を通して、授業改善や教育活動の質の向上を図る。
- ・主幹会議、企画調整会議、教科主任会議の連携を強化する。事前の意見調整や率直な意見交換を日常から推進する。

②経営企画室の機能強化

- ・効率的な予算編成と執行を継続する。
- ・学校徴収金の適正な執行を管理する。
- ・施設設備の維持・更新を計画的に行う。
- ・計画的に改修工事を申請し、施設設備の適切な管理を行う。
- ・適正な契約業務を行う。
- ・確実な情報管理を行う。

(2) 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標
学力向上に向けた取組	① 長期休業中の講習講座数 80講座 (R06 65講座、R05 81講座) ② 英語検定2級 160名 (R06 162名、R05 151名)
進学指導研究校としての進学実績	① 国公立大学現役合格者数 30名 (R06 28名、R05 14名) ② 早慶上理大学現役合格者数 50名 (R06 44名、R05 25名) ③ GMARCH大学現役合格者数 200名 (R06 191名、R05 164名) ④ 大学入学共通テスト受験者数割合 98% (R06 96%、R05 97%)
広報活動・募集対策	① 応募倍率 (推薦選抜) 2.5倍 (R06 2.15倍、R05 3.25倍) (学力選抜) 1.5倍 (R06 1.16倍、R05 1.96倍) ② 学校見学会参加者数 950組 (R06 838組、R05 965組) ③ 学校説明会参加者数 800組 (R06 772組、R05 798組)
「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」及び「東京型教育モデル」の実現	① 授業満足度 90% (R06 87.90%、R05 85.70%) ② ICT活用や授業の工夫 85% (R06 81.3%、R05 74.9%)